

実習日：平成 29 年度第 I 期 7 月 12 日

実習先：長門記念病院

大学名・学年：九州保健福祉大学 5 年

氏名：岡田 菜那

大分ゆふみ病院ではホスピスケアにおける薬剤師の仕事内容や役割について勉強させて頂きました。ホスピスや緩和ケアと聞くと以前までは、患者様ご本人の痛みや苦痛を和らげるものだと思っていました。しかし実際は患者様だけではなく、そのご家族の不安や悲しみにも耳を傾け、和らぐように支えているのだということを知りました。

また、今回の実習を通してホスピスとはただ死を待つところではなく最期まで患者・家族が共にその人らしく生き抜く場をつくっていくところだということも学びました。

患者様が最期までその人らしく充実した人生を送られるようにするために薬剤師に出来ることは、いかに痛みを少しでも緩和できるかが重要だと今回の実習を通して感じました。癌と一言と言っても、患者様個人によって抱える痛みや進行は違うわけですからその人に合った薬を選ぶ必要があります。たとえば多くの場合、疼痛を緩和させるためにモルヒネを使用することが多いですが、もしその患者様の腎機能が正常でなければ意識消失を起こしてしまいます。また、下痢が続いている患者様にモルヒネを使用しますと、モルヒネの副作用である便秘が働いて下痢を止めることができます。このように、患者様によっては副作用が作用になることがあるので薬剤師は薬の性質や検査値をよく理解しておくことが大事だと学びました。

痛みはいつどこでやってくるかわかりません。急変も頻繁に予測されます。どのような事態が起こっても落ち着いて正確な判断と処置が行え、また当該患者様だけでなくご家族の気持ちにも寄り添い苦痛を理解することができる薬剤師になりたいと今回の実習を通して思いました。

今回貴重な体験をさせて頂いたことで、薬剤師の卵としてまた一つ成長することができました。ありがとうございました。